

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|----------------------------|------------|
| 事業所番号 | 1273200582 | |
| 法人名 | 株式会社 リエイ | |
| 事業所名 | コミュニケア24 癒しの浦安ふじみ館グループホーム | |
| 所在地 | 〒279-0043 千葉県浦安市富士見2-21-36 | |
| 自己評価作成日 | 令和元年9月16日 | 評価結果市町村受理日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | |
|-------|-----------------|--|
| 評価機関名 | 株式会社 日本ビジネスシステム | |
| 所在地 | 千葉県市川市富浜3-8-8 | |
| 訪問調査日 | 平成31年10月22日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員同士が利用者の事を第一に考え、その人らしい生活を大切に思い支援している。近所のお店へご利用者と買い物、散歩などが日々の習慣になっている。運営推進会議には市役所職員や社会福祉協議会、ボランティアの皆様のお出席率が高く、現況の報告とご意見を伺う、良い機会となっている。医療面では24時間連絡体制のとれたクリニックと連携している。電話連絡だけでなくメディカルケアステーションというSNSを活用し医療介護関係者と随時情報交換できるようになっている。ご利用者、ご家族からの医療的相談にも対応できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コミュニケア24癒しの浦安ふじみ館は、地上3階の建物の居宅サービス機能を併せ持った総合介護サービス施設で、複合施設の特徴を最大限に活かしたケアを行っている。グループホームは2階にあり、法人の「3つの誓い」と共に、「人は人によって癒される」を施設理念に掲げ、暖かみ・思いやり・幸せ・安心を常に心がけ、日々サービスの提供に取り組んでいる。日頃から医療面においては連携医療機関の医師・看護師等とは、その時々々の状況の変化やニーズに応じて適切且つ、迅速な支援が行えるよう体制を整えている。施設として、看取り支援実績を活かし、必要機関との連携や経験を活かした柔軟な対応に繋げており、入居者・家族からも安心と納得が得られている。今年度から、ITを活用した介護記録と見守り機能を連携させたシステムを導入し、現場職員の業務の負担軽減や合理化を行う等、勤務の継続に繋がる職場環境づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入居者の方々、地域の方々、職員などで協力しあい、ゆとりある生活を営めるように定例会などを通じて理念を共有して実践するよう努めている。 | コミュニケア24「三つの誓い」と言う基本方針と施設理念を事業所内に掲示すると共に、ホームページ等にも掲載する等、内部・外部の人への周知を図っている。また、業務開始時に全職員による唱和が行われており、周知継続に努めている。新人研修においても、理念や基本方針の周知及び意識浸透を行う等、理念に基づいたサービスの実践に向け取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会にも加入しており、夏まつりではおみこしが当館前を通るようルート設定していただいている。公民館のイベントにも参加させて頂いている。 | 自治会加入や、日常の散歩や買い物等を通じて、地域の人達と良好な関係を築いている。また、イベントへの参加や傾聴ボランティアの受入れを行う等、外部の人達との交流機会を設けている。中学生の職場体験及び専門学生の実習を受け入れ等、様々な形で世代間交流や地域貢献に取り組んでおり、入居者の生活の活性化に繋げている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通じて意見交換を行うなどの活動を行う。見学、来館者には、認知症に対すご相談を受けている旨を伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月毎に開催し、当ホームの情報開示、参加者の方々からの意見を頂戴している。 | 市職員・地域包括支援センター職員・家族・施設職員等を構成員として、年6回、運営推進会議を開催している。会議では施設活動の報告・意見や情報交換を行い、施設の理解促進に努めている。また、ヒヤリハット事例報告や身体拘束の取組み状況も議題として取り上げ、施設運営の透明化も図っている。挙がった意見や提案については、サービスの質の向上に活かしている。他にも、会議ではスライドショーを活用しており、会議の形骸化防止や出席率の向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 認定調査は市役所選任の方が対応されており、調査時には、当館職員からも情報提供に努めている。又、運営推進会議時にも情報提供を実施している。 | 市とは、日頃から業務全般における相談や情報交換を行う等、連携を図っている。また、市職員の運営推進会議への参加や定期的に介護相談員の来訪もあり、意見・情報交換を密に行い、サービスの質の向上に活かしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 拘束に及びそうな対応については、拘束に至らない代替案をフロア会議などを通じて検討している。 | 身体拘束排除における施設方針を明確にすると共に、内部研修も実施されており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。身体拘束廃止に関する指針の整備や廃止委員会の設置及び委員会の定期開催等、適切な支援方法を策定している。施設方針や取り組み状況については、運営推進会議時の議題に取り上げる等、周知徹底・理解促進を図り、家族からも理解が得られた入居者の自由な生活を支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待については施設研修の項目に入れ指導している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用している入居者様がおられ、その方の実例を通じて、支援の流れの中で説明し、学んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 見学時から、看取りやリスク、救急搬送の現状など、要点をご説明させていただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情相談窓口を管理者、施設長として職員によせられた声も含めて、適切な対応をこころがけている。成年後見人制度のお客様が増えてきている為、本人の意思を尊重しつつも後見人様の意向も大切にしている。 | 家族の訪問時・電話連絡・運営推進会議開催時を活用する等、意見や要望を引き出すための機会作りや雰囲気作りに努めている。挙げた意見・要望においては、会議・申し送りノート等を活用し、周知・検討を図り、適切な改善に向け取り組んでいる。毎月、居室担当者が日常生活の状況を写真入りで伝える、「ふじみかん便り」を家族に送付しており、施設の理解促進及び信頼関係構築に繋げている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | カンファレンスや定例会等を通じて、意見交換に努めている。他施設とも同席して行われる業務改善委員会にも参加している。年に2回、その他適宜、個人面談を実施している。 | 定例会議や個人面談等を活用し、職員の意見・要望等を確認している。挙がった意見・要望・情報等は会議にて検討を図り、ケアに反映させている。また、業務改善委員会や内部研修の参加機会も確保されており、やりがいや向上心が持てる職場環境作りに努めている。会議内容は報告書としてまとめられ、全職員への閲覧を義務付けており、サービスに関する情報の共有に取り組んでいる。他に、記録はパソコンネットワークを活用して行われており、職員の日常業務軽減に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各職員の適正や意欲を踏まえ業務分掌を決定している。リーダー候補研修、社内研修など積極的にすすめている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各職員のスキルを踏まえ、安全な介護方法を軸に指導。外部研修の告知などで、職員全員が学ぶ機会を持てるように心がけている。新人職員に対しては、本部の新人研修への参加や“研修日誌”により教育係と新人職員との交流を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 浦安市認知症対策三位一体化計画推進事業が開催されている事例検討会に参加している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者から直接話を聴く機会を作り、求めている事などを引き出し、受け止める努力をしている。言葉に出さない困っている事や関係性も把握できるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 不安や困っている事など、できるだけ受け止められるようゆっくり話しが聞けるよう来訪していただいたり、入居前に自宅へ訪問するなど、よく聴ける場を設ける努力をしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者の状態や家族の悩みを聞き、場合に合ったアドバイスやサービス利用についての提案や援助を行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常的にお互いを頼りにしできる事(洗濯物たみ)など利用者と職員で共同で行うこともある。調理、味の確認、配膳等、出来る限り一緒に行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者も一緒に、お茶を飲みながらゆっくり話しが出来る場をセッティングし、職員から日常の様子を伝えながら相談事をしたりご家族からの提案も頂いている。ご本人が写っている写真を見ながら、その時の様子を伝えるとご家族も喜ばれる。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 会話の中に故郷の話を盛り込んで話したりする配慮を行っている。外出時近郊にお住まいの利用者の方に市内の話などをし、本人が再確認ができるような支援をしている。 | 地域の商店への買い物や地域行事への参加等、入居者の希望に添った柔軟な外出支援を行っている。また、家族との外出・外泊は自由となっており、家族との関係継続も支援している。入居者と友人との交流や手紙のやり取り等、一人ひとりの今までの生活を尊重し、良好な関係継続が図られるよう配慮している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士で相談するきっかけを作ったり、買い物へ他の方をご自分で誘うようすすめたり、食事ができたと声をかけて頂くなど、自然と「ありがとう」と言葉が出る場面作りをしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所を検討される際、ご相談に乗りますのでお気軽に連絡を下さいと伝えている。継続的にお付き合いが出来るように普段から関係を大切にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者、ご家族から希望や意向を聞き出す努力をしており、話し合いも必要に応じて行い不満や不信感を持つことのないよう努めている。確認が困難な場合は本人本位となるよう検討している。 | 契約時に、本人・意向・生活歴・身体状況等の把握に努めている。また、必要に応じて医師の意見書や他の介護サービス事業所から情報提供を受ける等、より詳しい情報の把握に取り組んでいる。入居後は家族との話し合いや日々の生活観察や会話の中から意向を汲み取り、記録している。会議にて情報や記録を活用し、本人本位で検討し、入居者の意向に沿ったサービスの提供に向け、職員間で情報を共有している。他にも、介護相談員との情報交換を基に、記録を更新し、第三者からの情報もケアに活かしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者やご家族からアセスメントで伺った情報だけでなく、普段の会話や面会時の雑談の中からも情報を引き出している。また伺った内容は職員全員が把握できるよう情報共有シート、申し送りなどで伝え共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の状態変化や職員の小さな気付きなど、申し送りや情報共有シートなどで職員同士が情報を共有しており、経過を追って把握するよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアカンファレンスにて話し合っている。カンファに参加できない専門職(リハビリの先生や医師など)やご家族へは事前に相談し、意見やアドバイスを頂き、利用者からの日頃の思いも反映されるよう介護計画を作成している。 | 入居者・家族の意向をもとに、会議にて検討し、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価・見直しを適切に行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。施設の管理・記録・情報共有については、主としてパソコンネットワークを活用して行われており、ペーパーレス化や業務簡素化を目指している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日常でケアされている内容をカナミックネットワークのケアウォッチャーに記入し、誰が見ても把握できるように心がけている。また情報ノートへ気づきや工夫を記入し、職員全員が把握、情報交換、意見ができるよう努めており、介護計画の見直しにも反映させている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 1Fのデイサービスへ遊びに出かけレクリエーションに参加したりしている。柔軟に他職員の協力も得られている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアセンターから傾聴ボランティア方が定期的に訪問されており、また必要に応じて依頼している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご家族の希望があれば継続してかかりつけ医へ受診できるよう配慮している。入居後、退院後などかかりつけ医へ受診する事について必ずご家族、施設側、往診の先生と相談し、ご家族の協力を得たり、介護職が付き添うなど柔軟に対応している。 | 連携医療機関の他、入居者・家族が希望する医療機関による受診が可能となっている。定期的に内科医の往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。連携医療機関とは、緊急時・急変時においては24時間体制で協力が得られており、状態変化に応じて迅速かつ適切に支援が行われるよう体制を整えている。また、連携医療機関の看護師とは、健康管理・服薬管理・医療面における相談や対応等を随時行っており、入居者・家族・職員等の不安解消に繋げている。他にも、必要に応じて訪問マッサージも行われており、身体機能の維持及び向上に繋げている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職員の日頃の気づきを連携医療機関の看護師に相談する事で情報共有し、日常の健康管理を行っている。情報を共有している事で往診医の診察にも役立っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時にはその方の普段の様子や傾向を看護師に伝え、入院による精神的ダメージを最小限に抑える努力をしている。病院の相談員やご家族と連絡を取り合い、早期退院へ向けた相談、協力を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | すべてのご家族と看取り介護について話し合い、同意書を頂いている。往診時や状態の変化が見られる場合、または変化が予想される時は往診時にご家族に来所してもらい主治医の意見を共に聞き一緒に考える場を設けている。また実際事業所で出来る事、出来ない事などを医師の意見を取り入れてご家族に説明している。 | 重度化・終末期においては、施設指針・同意書を作成すると共に、入居者・家族へ説明や同意を得ている。全職員が入居者・家族の意向を確認しながら、安心して納得の得られる支援方法の検討・方針の統一を図っている。日頃から医療面においては、連携医療機関と状況の変化やニーズに応じた適切な支援が行えるよう体制を整えている。施設として、看取り支援実績があり、必要機関との重度化や終末期における連携と共に、経験を活かした柔軟な対応に努めており、入居者・家族から安心と納得が得られている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 施設内研修にて行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年一回火災訓練を消防署へ依頼し、避難訓練を実施。夜間想定での避難訓練を行う。消防隊員からアドバイスをもらい、半年毎に現場職員のみで避難訓練や通報訓練を行っている。避難所となる堀江中学校と情報交換を行い、協力体制を築いている。 | 火災報知機・スプリンクラー・自動通報機等を設置していると共に、定期的に消防避難訓練を実施している。訓練では、消防署立会いの下、夜間想定訓練・消火器訓練・地震想定訓練等を実施しており、状況に応じた避難方法の確認を行っている。施設は鉄筋の建物となっており、火災・地震等の発生時における安全基準はクリアされている。また、自主検査チェック票を活用し、予防点検を定期的実施する等、非常災害時に備えている。他にも、浦安市消防署主催の研修への参加や、近隣の避難所「堀江中学校」との防災時における情報交換を行う等、地域との協力体制の整備に取り組んでいる。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 誇りやプライバシーを損ねるような声かけには介護職員一人ひとりが十分な配慮と理解を持っている。入浴やトイレ誘導では利用者さんの体調、心の状況を考え対応している。 | 法人が目指す介護理念に基づき、マニュアルの整備・プライバシー保護や接遇に関する研修を実施し、職員の理解促進を図っている。また、言葉遣いや対応方法についても、マナー委員会によるチェック項目に沿っての確認及び指導徹底が行われている。日々の生活の中で、入居者の気持ちに配慮し、自己決定しやすい言葉掛けや支援方法に努める等、理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の意思を尊重しており、意思を表出しにくい方でもできるだけ表しやすいように工夫している。自分から意思を表す事や決める事について職員全体が大切にしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 柔軟に対応しており職員側の都合にならない様配慮した声かけを行っている。どうしたいのかを日常生活の会話の中から引き出しあきらめる事なく暮らせるように努力している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 洋服は選べる方には日常的に選んでもらい、自ら選べない人にはスタッフが好みに合う物を選び、身だしなみの支援をしている。ご家族と話し合いスタッフと一緒に服を買いに行ったりもする。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 新聞の広告を見たり、食事のメニューをみんなで考えたりし献立を決めている。季節に合わせた食材や食べたい物を用意し準備、食事、片付けは日常的に協力しながら一緒に行っている。 | 入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けを職員と協同で行っている。その時々に応じて、入居者と職員が相談しながらメニューを決めており、バリエーションに富んだ食事が入居者から好評を得ている。また、外食会や行事食等を企画・実施しており、季節や旬を楽しみながら食事できるように配慮している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりに合わせた嗜好を把握し、それぞれに応じた対応をしている。食事や水分量の把握は職員間で情報を共有しており、必要があればチェック表を使用している。栄養バランスについて、定期的に栄養士からアドバイスをもらっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 全介助者は毎食後に行き、自立されている方は声かけ、見守りの支援をしている。口腔内の清潔保持の必要性を職員が理解している。週に一度必要のある方は歯科往診時に先生に口腔内のチェックをしてもらいその方にそった口腔ケアを指導してもらっている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 夜間はオムツを使用して安眠を促し、日中は下着にパット等を使用し個人に合わせた時間の間隔でさりげなくトイレへ誘導している。 | 排泄記録を活用し、個々の排泄パターンを把握していると共に、仕草やパターンに応じて、声掛けやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。日頃から食事・水分・運動を工夫すると共に、必要に応じて、医師・看護師に相談し、適切な排便コントロールに努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 朝の牛乳や繊維質を含む食事を心掛けており、日々体を動かす機会を作っている。食後にトイレ誘導をし便意を感じられるよう働きかけしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個人の入浴日や時間は決めておらず、希望に沿った支援を心掛けている。また入浴剤やしょうぶ湯、ゆず湯など季節が楽しめるよう工夫している。 | 入浴は入居者の希望に応じて、時間や回数等、柔軟に対応しており、本人の意向にそった入浴支援を行っている。必要に応じて、足浴・清拭・シャワー浴・部分浴を実施し、入居者の清潔保持に努めている。また、季節に応じて柚子や菖蒲を活用する等、入浴を楽しむことが出来るよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の生活リズムを意識しながらもその方の状態や気分により安心して休息したり眠れるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者の個人ファイルに、最新の薬情を入れ、いつでも確認できるようにしている。薬剤変更があった時にはその都度、申し送りフロア全員で共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの楽しみ事を理解し日常的に支援している。アセスメントで把握している内容にとどまらず生活の中で日々役割や楽しみを見つけていくよう努めている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物や散歩など日常的に出掛けており個人の希望を大切にしている。旅行などは次はどこへ行きたいかなど、希望を普段の会話の中に取り込みご家族、施設スタッフと話合いなるべく実現できるよう支援している。 | 入居者の希望・体調・天気等に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われている。また、定期的に入居者の希望や季節等に考慮しながら外出行事を企画・実践しており、外出がより楽しめるよう取り組んでいる。併設施設とは合同行事等で交流の機会があり、入居者の楽しみとなっている。その他にも、屋上が設置されており、プランター菜園を行うと共に、出入りが自由で、気軽に戸外に出れることから、入居者や職員にとっては憩いの場となっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 数名ではあるが一人一人の希望や力に応じて、金額は違うがそれぞれにお金を所持している。ご自身でお金を管理している方には、買い物の際に何か買っておこなうか確認したり使い過ぎがないよう配慮している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望に沿って電話できる時間やご家族のご希望に沿って電話で話す機会を作っている。本人宛の手紙を届けたり、職員が手伝いながらご家族や知人などに手紙を出す事もある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の飾り(正月、クリスマス)や、時より食堂のテーブルに置く作品などを玄関やホール、洗面所などに配置し、一緒に見て安らげる空間をつくっている。利用者さんが好む音楽をかけている。 | 施設内はバリアフリー環境が整っており、十分な介助スペースが確保されている。また、エレベーターが設置され、入居者の身体状況や安全面に配慮した設備環境が整備されており、入居者・家族の安心と自由な生活に繋がっている。施設の共有スペースには、椅子・テーブル・ベンチ等が備えられており、自由にくつろげる環境が整っている。施設内には、季節の飾り付け・入居者による作品・行事や外出時の写真等が掲載されており、楽しい雰囲気作りがなされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングのソファで一人のんびりとテレビを見る方や、慣れたテーブル席で他の方と談笑したり、屋上で過ごすなど、その時の気分に合わせて居場所の工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使っていた物を持ち込みで使用していただき、タンスの中身などもご本人の使いやすい配置にし、居心地良く過ごせるように配慮している。 | 希望に応じて、馴染みの物を自由に持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できる様配慮している。また、テレビやポータブルトイレの設置も可能となっており、生活歴や身体状況に合わせた居室作りを行っている。各居室に鍵や収納スペースを設置する等、プライバシー確保を意識した環境作りを行うと共に、洗面台・エアコンも備え、利便性に優れ、快適な生活に配慮した設計となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全は第一に考えつつ一人ひとりの「できる事」「分かる事」を奪ってしまわないようにご本人の力を活かし、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | | |